

納 屋 内 高 史

(埋蔵文化財センター嘱託学芸員)

はじめに

富山市北東部は常願寺川の右岸に位置し、古くから常願寺川の氾濫を受けてきた。それは裏を返せば、豊富な水資源に恵まれてきたということでもあり、本地域の遺跡からは、通常の遺跡では腐って消滅してしまう種子や木製品などが、水漬け状態で外気と遮断された状態で多数出土している。

ここでは本地域の遺跡から出土した製品の素材の同定結果を基に、特に古代から中近世における植物利用について考えたい。

1 製品素材から見た植物利用の傾向

本地域の遺跡のうち、発掘調査で木製品が出土し、かつ、その樹種同定結果が公表されている遺跡は図1の5遺跡である。

各遺跡の分析結果を見てみると、本地域ではスギやアスナロ(アテ)、ブナ属などがよく用いられており、特に中世以降スギ以外の樹種の利用が盛んになることが見て取れるほか、用途により、使用する樹種が異なる傾向がみられる(表1)。まず、柱や礎板などの建築材や杭、井戸枠など、土木・建築用途に用いられるものは、スギやアスナロ、クリなどが主に用いられており、特にスギの利用が多い。漆器や曲物等、食器類の素材として用いられるものは、ブナ属やアスナロ、トチノキ、ヒノキなどが主に用いられており、特にブナ属の利用が多い。また、木簡や木札にはスギやアスナロが主に用いられている。これらの樹種のうち、スギやアスナロは、針葉樹であるため、縦割材を取りやすく、湿度や気温などの環境変化に対する耐久性があることから、現在でも建築部材としてよく用いられる樹種である。クリも加工しにくいものの、硬く耐久性が高いことから、建築部材として用いられている事例がある。また、ブナ属は腐りやすく、加工後の狂いが出やすいが、強度が高く、加工しやすいため、現在でも、家具や曲物、漆器の素材としてよく用いられている。木簡や木札にスギやアスナロが主に用いられていることについては、針葉樹であるため縦割材を採りやすいこと、木目が美しいことなどが関係しているであろう。

植生分布に目を向けると、水橋地域周辺では、山間部ではブナなどの落葉広葉樹林が発達し、スギやヒノキなどの常緑針葉樹林はあまり発達しない。また、丘陵や台地上については自然植生が人為的な影響を受けて変質したものである代償植生として、コナラやミズナラなどの落葉広葉樹林が見られる。先にも述べたように、本地域ではスギやアスナロ、ブナ属などがよく利用されているが、特にスギやアスナロ、ヒノキといった、主に山間部に生育する常緑針葉樹については、遠方より素材を入手していた可能性も考える必要があるだろう。

2 他地域との比較

本地域の傾向を出土木製品の全国的な傾向と比較してみると、建築・土木用途に用いられるものは、全国的にヒノキ、スギが多く、全国的な傾向とおおむね一致するが、全国的にはあまり利用されていないアスナロが、特に中世以降一定量利用されている点は注目される。周辺地域の遺跡では、小杉町針原東遺跡で中世以降、スギ以外にアスナロまたはクロベと考え



図1 対象とする遺跡

られる樹種が利用されるようになるほか(パリノ・サーヴェイ 1994)、高岡市下老子笹川遺跡では近世以降、広葉樹やスギに代わってアスナロやサワラが用いられるようになることが指摘されている(三村 2006)。しかし、隣県の石川県では、中近世遺跡でもスギがほとんどで、アスナロは小松市浄水寺遺跡などごく少量出土しているのみである。その為、本地域で見られたアスナロの一定量の利用という特徴は、富山県内の中近世遺跡における木材利用の特徴といえるだろう。富山県内の遺跡出土の建築部材は、柱根について、スギが石川県ほど利用されていないことがこれまでに指摘されているが(町田 2003)、それだけに止まらない特色ある木材利用を行っていたといえる。

また、食器類に用いられるものは、全国的にヒノキ、スギ、ケヤキが多い傾向がみられる

遺跡	水橋荒町・辻ヶ堂遺跡	小出城址	水橋金広・中馬場遺跡	水橋専光寺遺跡	水橋上砂子坂遺跡
時期	奈良・平安	室町～江戸	室町～江戸	中世～近世	室町～江戸
タケ			編物 1,炭 8		
マツ属			箱板 1,炭 2	板 1	
アカマツ		木片 1			
イヌマキ			弧状木製品 1,杭 1		
ヒノキ属			井戸桶(曲物)1		
ヒノキ		井戸杵 1,漆器 1,薄板 1,木片 1			曲物 1
スギ	板 1,柱根 2,井戸杵 3,齋串 2	箸状木製品 1,棒状木製品 1,炭 2,木片 1	井戸杵 15,錐 1,井戸桶(曲物)2,下駄 1,柱根 5,礎板 1,木簡 3,槽 1		木札 1
クロベ属			曲物 1		
クロベ			双六板(埋木)1		
アスナロ			井戸杵 19,横杵(頭)1,曲物 4,御札,井戸,薄板 1,木簡 2,杭 1	杭 2,箸 1	杭 1,曲物 1,木札 3
イヌガヤ					弓状木製品 1
カヤ			弧状木製品 1		
モクレン			炭 2		
ケヤキ			双六板 1,大椀 1		
エノキ					炭 1
サワグルミ		下駄 1			
ハンノキ垂属		井戸桶 1	漆器椀 2,杭 1		
カバノキ属		炭 1			
クマシデ節		炭 1			
ハシバミ属				不明木製品 1	
クリ		炭 2	柱根 2,横杵(楔)1,厚板 1,炭 9		柱根 2
ブナ属		漆器椀 9,小皿 1,炭 2	木臼 4,漆器椀 11,漆器小皿 1	漆器 1	漆器椀 2
コナラ節		炭 2	横杵(柄)1		
クヌギ節			横槌 1		
ヤナギ			柱痕 1		
リョウブ		炭 1			
エゴノキ属		炭 1			
サクラ			炭 1		
カエデ属		炭 1			
トチノキ			漆器椀 2		漆器椀 1
キハダ			杭 1		

表 1 水橋地域から出土した木製品一覧

が、本地域ではブナ属が多く用いられていることは特徴的である。ブナ属が食器類、特に漆器に用いられている事例は全国的に見られるが、北陸地方では中世以降、刳物・挽物にブナ属が目立って利用されるようになり、富山県では特にその傾向が顕著である(久田 2012)。本地域の傾向は、そのような北陸地方における中近世の木材利用の動向を反映したものといえるだろう。

まとめ

以上のように、過去の水橋地域の人々は、現代の我々と同じように、樹種の特徴を踏まえたうえで、用途に応じて樹種を選択していたと言える。また、利用樹種の傾向については、アスナロやブナ属の多用など全国的な傾向とは異なる点が見られた。

これらのことから、本地域では樹種の特徴を踏まえながらも、地域に特徴的な木材利用を行っていたと言えるだろう。

参考文献

- 島地謙・伊藤隆夫編 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』,雄山閣出版,296pp.
- パリーノ・サーヴェイ 1994 「針原東遺跡から出土した木製品の材同定」『小杉町針原東遺跡発掘調査報告書』富山県小杉町教育委員会,pp.141-154.
- パリーノ・サーヴェイ 1999 「水橋荒町遺跡から出土した木製品等の樹種」『水橋荒町遺跡発掘調査概要Ⅱ』,富山県教育委員会,pp.42-43.
- 富山県教育委員会編 2001 『富山県水橋・金田中馬場遺跡発掘調査報告書-県営農免農道(上条南部地区)整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 2-』,128pp.
- 町田賢一 2003 「「木の家」-柱根の樹種鑑定から建物を考える-」『富山考古学研究』6,富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所,pp.25-36.
- 長谷川益男 2005 「富山県水橋荒町・辻ヶ堂遺跡出土木製品の樹種について」『富山県水橋荒町・辻ヶ堂遺跡発掘調査報告書-病院施設等建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(2)-』富山県教育委員会,pp.22-24.
- 富山県教育委員会編 2006 『富山県水橋金田・中馬場遺跡発掘調査報告書Ⅱ-県営農免農道(上条南部地区)整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 3-』 161pp.
- 三村昌史 2006 「木製品の樹種同定」『下老子笹川遺跡発掘調査報告書-能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告-』富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所,pp.128-136.
- 吉田生物研究所 2007 「富山県水橋専光寺遺跡出土木製品の樹種同定結果」『富山県内遺跡発掘調査概要Ⅱ 水橋専光寺遺跡・宮町遺跡・鍛冶町遺跡』,富山県教育委員会,pp.6-9.
- 富山県教育委員会編 2007 『富山県小出城跡発掘調査報告書』, 70pp.
- 吉田生物研究所 2009 「理化学的分析-井戸枿材の樹種調査-」『富山県水橋金田・中馬場遺跡発掘調査報告書-市道水橋中馬場線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告-』富山県教育委員会,p.15.
- パリーノ・サーヴェイ 2008 「樹種同定」『小松市浄水寺遺跡』石川県教育委員会・石川県埋蔵文化財センター,pp.395-404.
- 吉田生物研究所 2009 「出土木製品の樹種調査結果」『富山県内遺跡発掘調査概要Ⅳ-水橋上砂子坂遺跡・小竹貝塚-』富山県教育委員会,pp.25-33.
- 久田正弘 2012 「中部日本海側」『木の考古学』,pp.210-223.